

「ム解析研究ポリシー」にも従って行う。

7.2. インフォームドコンセント

7.2.1. 患者への説明

本附随研究への登録に先立って、担当医は患者本人に施設の IRB 承認が得られた説明文書(添付の説明文書または施設で改変を加えた説明文書)を患者本人に渡し、以下の内容を口頭で詳しく説明する。

- 1) この研究が JCOG の臨床試験(JCOG0911)の附随研究であること。
- 2) 遺伝子とは
- 3) 遺伝子と疾病
- 4) 遺伝子解析研究へのご協力について
- 5) 研究協力の任意性と撤回の自由
研究参加に先立って同意拒否が自由であることや、いったん同意した後の同意の撤回も自由であり、それにより診療上の不利益を受けないこと。
- 6) 提供者または代諾者等により同意が撤回された場合には、撤回に係る試料等が廃棄され、撤回に関わる研究結果が消去されること。
- 7) 研究の意義、目的と方法
- 8) 予測される研究結果および提供者等に対して予測される危険や不利益
- 9) 研究計画書の開示
- 10) 試料の提供は無償であること
- 11) 個人情報の保護について:氏名や個人情報は守秘されるための最大限の努力が払われること。
- 12) 研究の倫理審査
- 13) 試料から得られた解析結果は、匿名化された上研究成果として公表
- 14) 将来、研究の成果が特許権等の知的財産権を生み出す可能性と研究成果から生じる知的財産権の帰属
- 15) 遺伝子解析研究終了後の試料などの保存、使用または廃棄などの取り扱い方針
- 16) 研究資金について
- 17) 遺伝カウンセリングについて
- 18) 研究責任者の氏名と職名
- 19) 担当医師の連絡先、研究代表者、試料解析研究事務局
担当医の連絡先のみでなく、施設の研究責任者、研究の研究代表者(または試料解析研究事務局)の連絡先を文書で知らせ、個人情報の訂正、同意の撤回および研究について苦情を含めて自由に質問できること。

上記の説明に加えて、当該試料解析実施施設(名古屋大学試料解析研究事務局、静岡県立静岡がんセンター一病理診断科、ファルコバイオシステムズ、東京大学医学部附属病院 Cancer board 研究室)で試料解析を行う旨の説明文書ならびに同意書を併せて取得する。患者に対する説明同意文書は原則としてモデル説明同意文書をそのまま用いるが、参加施設の倫理審査委員会等の承認を得て、モデル説明同意文書の内容を変更した場合には、試料解析研究事務局に変更の内容を連絡すること。

7.2.2. 同意

研究についての説明を行い、十分に考える時間を与え、患者が研究の内容をよく理解したことを確認した上で、研究参加について同意するか否かを確認する。患者本人が研究参加に同意した場合、付表の同意書または医療機関で定められた書式の本研究の同意書を用い、説明をした医師名、説明を受け同意した患者名、同意を得た日付の記載があることを確認する。

同意文書は2部コピーし、1部は患者本人に手渡し、1部は施設コーディネーターが保管する。原本はカルテに保管する。

7.3. 個人情報の保護と患者識別

JCOG は、個人情報および診療情報などのプライバシーに関する情報は個人の人格尊重の理念の下、厳重

に保護され慎重に取り扱われるべきものと認識し、「JCOG プライバシーポリシー」を定め、万全な管理対策を講じ、プライバシー保護に努める。詳細については、JCOG ホームページ(<http://www.JCOG.jp/>)参照。

なお、本研究では、患者識別として JCOG0911 の患者登録番号と患者イニシャルのみを使用する。よって、匿名化の作業は行わないものの、個人の特定は出来ず、試料提供者に対する個人情報流出する危険や不利益は極めて少ない。

7.3.1. JCOG が従うポリシー、法令、規範

JCOG は JCOG 研究を行うにあたり原則として、「JCOG プライバシーポリシー」、その他、以下の法令、規範に従う。下記以外の法令、規範、ポリシーが適応となる場合は、加えて従うこととする。

- ・ 個人情報の保護に関する法律(平成 15 年 5 月 30 日法律第 57 号、最終改正:平成 15 年 7 月 16 日法律第 119 号)
- ・ ヘルシンキ宣言(日本医師会訳)
- ・ 疫学研究に関する倫理指針(平成 14 年 6 月 17 日制定、平成 16 年 12 月 28 日全部改正、平成 17 年 6 月 29 日一部改正、平成 19 年 8 月 16 日全部改正、平成 20 年 12 月 1 日一部改正)

7.3.2. 患者情報の開示等に対する対応

患者本人より JCOG が保有するプライバシーに関する情報の開示などを求められた場合の対応者は、原則として当該患者の医療機関の研究者(施設研究責任者、施設コーディネーター、担当医)とする。

7.3.3. 一般的な問い合わせおよび苦情の受付

プライバシーポリシーに関する一般的な問い合わせや苦情は、下記にて、郵便、電子メール、FAX のいずれかの方法で受け付ける。

問い合わせ窓口: JCOG データセンター プライバシー保護担当

郵送先: 〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1 国立がん研究センター

E-mail: JCOG_privacy@ml.JCOG.jp

FAX: 03-3542-3374

7.3.4. プロトコールの遵守

本研究に参加する研究者は、患者の安全と人権を損なわない限り、本プロトコールを遵守する。

7.3.5. 検体・試料の保存、破棄

余剰検体は、JCOG0911 患者登録番号、イニシャルなども削除し全ての試料を破棄する。

7.4. 医療機関の倫理審査委員会の承認

7.4.1. 研究参加開始時の承認

本附随研究への参加に際しては、本プロトコールおよび患者への説明文書を用いて研究を実施することが、各医療機関の承認を得なければならない。

承認が得られた場合、各医療機関の施設コーディネーターは各医療機関の承認文書のコピーを試料解析研究事務局へ送付する(郵送または FAX: 052-744-2361)。承認文書原本は施設コーディネーターが保管、コピーは試料解析研究事務局が保管する。

なお、患者への説明文書は、臨床研究についての諸要件から逸脱しない範囲において医療機関毎に変更を加えたものを当該医療機関の承認を得て用いることができるが、プロトコールについては医療機関毎の内容変更は許容されない。全施設共通のプロトコールを用いる。内容の変更が必要な場合は、全施設で用いるプロトコールとして改正もしくは改訂を行うため、医療機関からプロトコール本文の修正依頼があった場合は、施設コーディネーターは試料解析研究事務局に相談すること。説明文書を医療機関の指示等により変更した場合は、変更した説明文書を試料解析研究事務局に送付する。試料解析研究代表者/試料解析研究事務局は、施設での変更(削除や内容変更)が不適切と判断した場合、施設研究責任者/施設コーディネーターを通じて医療機関に再検討を依頼することができる。

7.4.2. 各医療機関の承認の年次更新

各医療機関における、本プロトコールおよび患者説明文書に対する審査承認の年次更新の要否については各医療機関の規定に従う。審査承認の年次更新が行われた場合であっても、JCOG としては各医療機関の

年次更新承認書の提出は求めない。

7.5. JCOG 研究に関わる者の利益相反(COI)の管理について

JCOG の研究に関わる研究者や JCOG 研究を支援する者の COI は以下のように管理する。

- 1) 施設研究責任者や施設コーディネーターなど参加施設での診療において JCOG 研究に関わる者の COI については、参加施設の医療機関の規定に従う。
- 2) 研究代表者や研究事務局、グループ代表者やグループ事務局など、JCOG 研究に中心的な役割をもって関わる者の COI については、JCOG 利益相反委員会が管理する。その他、JCOG の効果・安全性評価委員会などの委員や、個々の JCOG 研究に関わる JCOG データセンター/運営事務局スタッフの COI についても同様に管理する。

8. 研究資金

- ・ 厚生労働科学研究費補助金 がん臨床研究事業(H20-がん臨床一般-019)
「悪性神経腫瘍に対するTemozolomide の治療効果を増強した標準的治療確立に関する研究」班
- ・ 国立がん研究センターがん研究開発費指定研究 20 指-4
「希少悪性腫瘍に対する標準的治療確立のための多施設共同研究」班

9. 予定検体数と研究期間

JCOG0911 の予定登録数が 120 例であることから、本附随研究の登録数は 80-120 例と見込んでいる。いずれかの参加施設において初めて IRB の承認が得られた日をもって研究開始日とし、順次、承認が得られた参加施設からの試料の収集を行う。本体研究(JCOG0911)は 2010 年 4 月より登録が開始され、予定登録期間は 1.5 年、追跡期間は 2 年の総研究期間が 3.5 年の研究である。本附随研究は JCOG0911 の生存期間を用いるため、本附随研究の研究期間は本体研究(JCOG0911)の総研究期間を考慮して 5 年間とする。

10. 研究組織

10.1. グループ代表者

洪井壮一郎

国立がん研究センター中央病院脳神経外科
〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1
TEL:03-3542-2511(代表)
FAX:03-3545-3567
E-mail:sshibui@ncc.go.jp

10.2. 研究代表者

若林俊彦

名古屋大学大学院医学系研究科 脳神経外科
〒466-8550 愛知県名古屋市昭和区鶴舞町 65
TEL:052-744-2355 (ダイヤルイン)
FAX:052-744-2361
E-mail:wakabat@med.nagoya-u.ac.jp

10.3. 試料解析研究事務局

夏目敦至

名古屋大学大学院医学系研究科 脳神経外科
〒466-8550 愛知県名古屋市昭和区鶴舞町 65
TEL:052-744-2355 (ダイヤルイン)
FAX:052-744-2361
E-mail:anatsume@med.nagoya-u.ac.jp

成田善孝

国立がん研究センター中央病院 脳神経外科

〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1
 TEL:03-3542-2511(代表)
 FAX:03-3545-3567
 E-mail:yonarita@ncc.go.jp

10.4. 試料解析実施施設及び責任者

夏目敦至

名古屋大学大学院医学系研究科脳神経外科
 〒466-8550 愛知県名古屋市昭和区鶴舞町 65
 TEL:052-744-2355 (ダイヤルイン)
 FAX:052-744-2361
 E-mail:anatsume@med.nagoya-u.ac.jp

渡邊麗子

静岡県立静岡がんセンター病理診断科
 〒411-8777 静岡県駿東郡長泉町下長窪 1007
 TEL:055-989-5222
 FAX:055-989-5714
 E-mail:r.watanabe@scchr.jp

東央晋

株式会社ファルコバイオシステムズ
 〒604-0911 京都市中京区河原町通二条上る清水町 346
 TEL:075-257-8541
 FAX:075-257-8544
 E-mail:h-higashi@mail.falco.co.jp

小川誠司

東京大学医学部附属病院 Cancer board 研究室
 〒108-8639 東京都港区白金台 4-6-1
 TEL:03-5449-5331
 FAX:03-5449-5451
 E-mail:todaiips@ims.u-tokyo.ac.jp

10.5. 参加施設

JCOG0911「初発膠芽腫に対するインターフェロン-β + テモゾロミド併用化学放射線療法のランダム化第 II 相試験」の参加施設のうち、試料の外部提供に関する IRB の承認が得られた施設。

10.6. 統計解析責任者

JCOG データセンター
 福田治彦
 柴田大朗
 水澤純基
 試料解析研究事務局
 夏目敦至
 竹内一郎

11. 委託研究契約

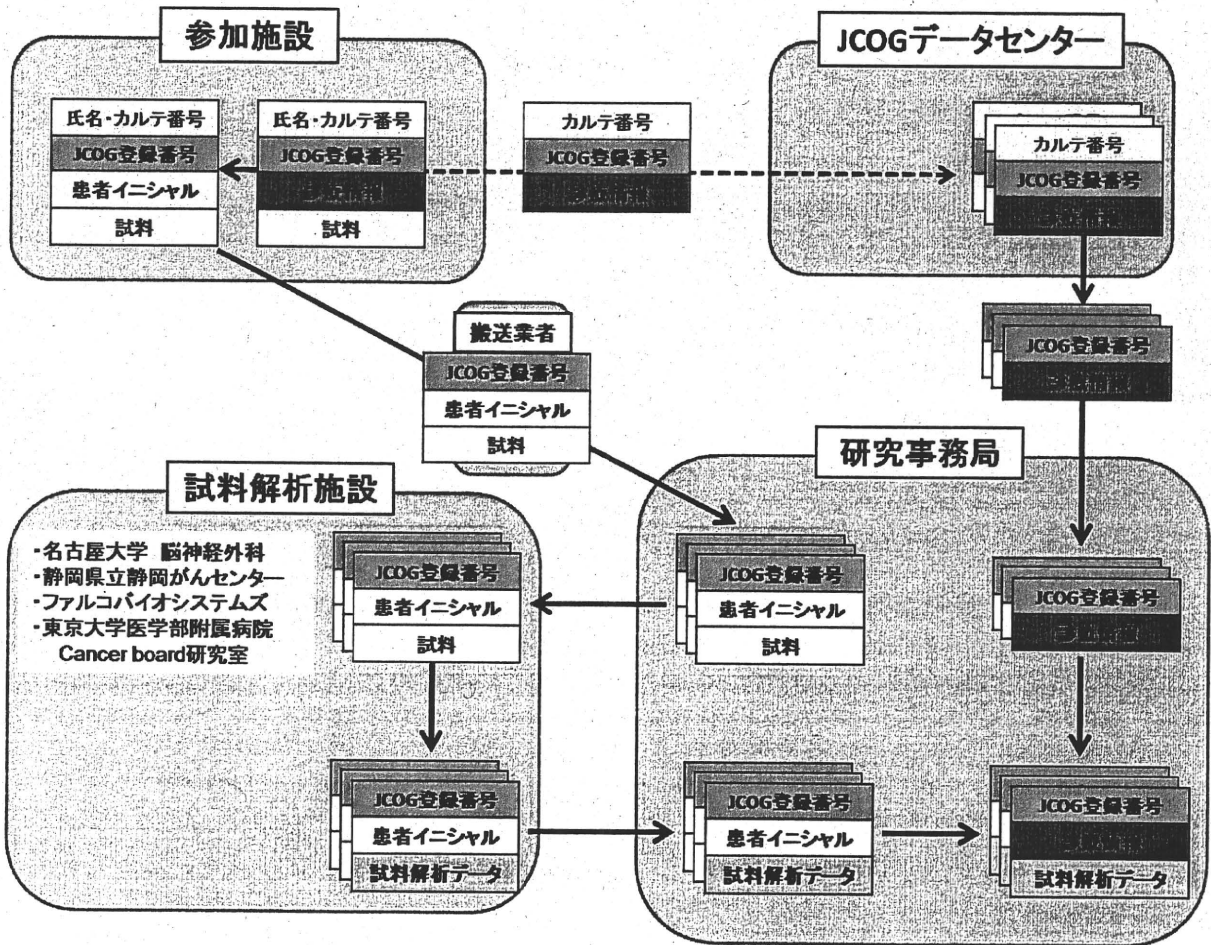
本研究における、Multiplex Ligation-dependent Probe Amplification (MLPA)法に関しては、国立がん研究センターの共同研究に関する規定に従い、株式会社ファルコバイオシステムズと委託研究契約を締結した上で実施する予定である。なお、本研究に要する費用は全て、8.研究資金に記載した通り、厚生労働科学研究費補助金 がん臨床研究事業 (H20-がん臨床一般-019)「悪性神経膠腫に対するTemozolomide の治療効果を増強した標準治療確

立に関する研究」班、および、独立行政法人国立がん研究センターがん研究開発費指定研究 20 指-4「希少悪性腫瘍に対する標準治療確立のための多施設共同研究」班より支出される。

12. 研究結果の公表

共同研究者と協議の上、報告をまとめ公表する。試料解析研究代表者、試料解析研究事務局、共同研究者が共同して論文を作成し、学会発表を行う。

13. 附図: 試料の流れ



14. 参考文献

- Hirose Y, Sano H. [Molecular pharmacology on DNA methylating agent temozolomide]. No Shinkei Geka 2007;35(2):117-129.
- Ludlum DB. DNA alkylation by the haloethylnitrosoureas: nature of modifications produced and their enzymatic repair or removal. Mutat Res 1990;233(1-2):117-126.
- Pegg AE, Dolan ME, Moschel RC. Structure, function, and inhibition of O6-alkylguanine-DNA alkyltransferase. Prog Nucleic Acid Res Mol Biol 1995;51:167-223.
- Jaeckle KA, Eyre HJ, Townsend JJ, Schulman S, Knudson HM, Belanich M, et al. Correlation of tumor O6 methylguanine-DNA methyltransferase levels with survival of malignant astrocytoma patients treated with bis-chloroethylnitrosourea: a Southwest Oncology Group study. J Clin Oncol 1998;16(10):3310-3315.
- Mineura K, Yanagisawa T, Watanabe K, Kowada M, Yasui N. Human brain tumor O(6)-methylguanine-DNA methyltransferase mRNA and its significance as an indicator of selective chloroethylnitrosourea chemotherapy. Int J Cancer 1996;69(5):420-425.
- Belanich M, Pastor M, Randall T, Guerra D, Kibitel J, Alas L, et al. Retrospective study of the correlation between the DNA repair protein alkyltransferase and survival of brain tumor patients treated with carmustine. Cancer Res 1996;56(4):783-788.
- Natsume A, Ishii D, Wakabayashi T, Tsuno T, Hatano H, Mizuno M, et al. IFN-beta down-regulates the expression of DNA repair gene MGMT and sensitizes resistant glioma cells to temozolomide. Cancer Res 2005;65(17):7573-7579.
- Esteller M, Garcia-Foncillas J, Andion E, Goodman SN, Hidalgo OF, Vanaclocha V, et al. Inactivation of the

- DNA-repair gene MGMT and the clinical response of gliomas to alkylating agents. *N Engl J Med* 2000;343(19):1350-1354.
9. Natsume A, Wakabayashi T, Ishii D, Maruta H, Fujii M, Shimato S, et al. A combination of IFN-beta and temozolomide in human glioma xenograft models: implication of p53-mediated MGMT downregulation. *Cancer Chemother Pharmacol* 2008;61(4):653-659.
 10. Bello MJ, Alonso ME, Aminosos C, Anselmo NP, Arjona D, Gonzalez-Gomez P, et al. Hypermethylation of the DNA repair gene MGMT: association with TP53 G:C to A:T transitions in a series of 469 nervous system tumors. *Mutat Res* 2004;554(1-2):23-32.
 11. Kamiryo T, Tada K, Shiraishi S, Shinjima N, Kochi M, Ushio Y. Correlation between promoter hypermethylation of the O6-methylguanine-deoxyribonucleic acid methyltransferase gene and prognosis in patients with high-grade astrocytic tumors treated with surgery, radiotherapy, and 1-(4-amino-2-methyl-5-pyrimidinyl)methyl-3-(2-chloroethyl)-3-nitrosourea-based chemotherapy. *Neurosurgery* 2004;54(2):349-357; discussion 357.
 12. Nakamura M, Watanabe T, Yonekawa Y, Kleihues P, Ohgaki H. Promoter methylation of the DNA repair gene MGMT in astrocytomas is frequently associated with G:C → A:T mutations of the TP53 tumor suppressor gene. *Carcinogenesis* 2001;22(10):1715-1719.
 13. Hegi ME, Diserens AC, Gorlia T, Hamou MF, de Tribolet N, Weller M, et al. MGMT gene silencing and benefit from temozolomide in glioblastoma. *N Engl J Med* 2005;352(10):997-1003.
 14. von Deimling A, Bender B, Jahnke R, Waha A, Kraus J, Albrecht S, et al. Loci associated with malignant progression in astrocytomas: a candidate on chromosome 19q. *Cancer Res* 1994;54(6):1397-1401.
 15. von Deimling A, Nagel J, Bender B, Lenartz D, Schramm J, Louis DN, et al. Deletion mapping of chromosome 19 in human gliomas. *Int J Cancer* 1994;57(5):676-680.
 16. Nakamura M, Yang F, Fujisawa H, Yonekawa Y, Kleihues P, Ohgaki H. Loss of heterozygosity on chromosome 19 in secondary glioblastomas. *J Neuropathol Exp Neurol* 2000;59(6):539-543.
 17. Cairncross JG, Macdonald DR. Successful chemotherapy for recurrent malignant oligodendroglioma. *Ann Neurol* 1988;23(4):360-364.
 18. Cairncross G, Berkey B, Shaw E, Jenkins R, Scheithauer B, Brachman D, et al. Phase III trial of chemotherapy plus radiotherapy compared with radiotherapy alone for pure and mixed anaplastic oligodendroglioma: Intergroup Radiation Therapy Oncology Group Trial 9402. *J Clin Oncol* 2006;24(18):2707-2714.
 19. van den Bent MJ, Carpentier AF, Brandes AA, Sanson M, Taphoorn MJ, Bernsen HJ, et al. Adjuvant procarbazine, lomustine, and vincristine improves progression-free survival but not overall survival in newly diagnosed anaplastic oligodendrogliomas and oligoastrocytomas: a randomized European Organisation for Research and Treatment of Cancer phase III trial. *J Clin Oncol* 2006;24(18):2715-2722.
 20. Kouwenhoven MC, Kros JM, French PJ, Biemond-ter Stege EM, Graveland WJ, Taphoorn MJ, et al. 1p/19q loss within oligodendroglioma is predictive for response to first line temozolomide but not to salvage treatment. *Eur J Cancer* 2006;42(15):2499-2503.
 21. Schmidt MC, Antweiler S, Urban N, Mueller W, Kuklik A, Meyer-Puttlitz B, et al. Impact of genotype and morphology on the prognosis of glioblastoma. *J Neuropathol Exp Neurol* 2002;61(4):321-328.
 22. Ichimura K, Schmidt EE, Miyakawa A, Goike HM, Collins VP. Distinct patterns of deletion on 10p and 10q suggest involvement of multiple tumor suppressor genes in the development of astrocytic gliomas of different malignancy grades. *Genes Chromosomes Cancer* 1998;22(1):9-15.
 23. Karlbom AE, James CD, Boethius J, Cavenee WK, Collins VP, Nordenskjold M, et al. Loss of heterozygosity in malignant gliomas involves at least three distinct regions on chromosome 10. *Hum Genet* 1993;92(2):169-174.
 24. Rasheed BK, McLendon RE, Friedman HS, Friedman AH, Fuchs HE, Bigner DD, et al. Chromosome 10 deletion mapping in human gliomas: a common deletion region in 10q25. *Oncogene* 1995;10(11):2243-2246.
 25. Ohgaki H, Dessen P, Jourde B, Horstmann S, Nishikawa T, Di Patre PL, et al. Genetic pathways to glioblastoma: a population-based study. *Cancer Res* 2004;64(19):6892-6899.
 26. Li J, Yen C, Liaw D, Podsypanina K, Bose S, Wang SI, et al. PTEN, a putative protein tyrosine phosphatase gene mutated in human brain, breast, and prostate cancer. *Science* 1997;275(5308):1943-1947.
 27. Tohma Y, Gratas C, Biernat W, Peraud A, Fukuda M, Yonekawa Y, et al. PTEN (MMAC1) mutations are frequent

- in primary glioblastomas (de novo) but not in secondary glioblastomas. *J Neuropathol Exp Neurol* 1998;57(7):684-689.
28. Bredel M, Pollack IF, Hamilton RL, James CD. Epidermal growth factor receptor expression and gene amplification in high-grade non-brainstem gliomas of childhood. *Clin Cancer Res* 1999;5(7):1786-1792.
 29. el-Deiry WS, Tokino T, Velculescu VE, Levy DB, Parsons R, Trent JM, et al. WAF1, a potential mediator of p53 tumor suppression. *Cell* 1993;75(4):817-825.
 30. Watanabe K, Tachibana O, Sata K, Yonekawa Y, Kleihues P, Ohgaki H. Overexpression of the EGF receptor and p53 mutations are mutually exclusive in the evolution of primary and secondary glioblastomas. *Brain Pathol* 1996;6(3):217-223; discussion 223-214.
 31. Serrano M. The tumor suppressor protein p16INK4a. *Exp Cell Res* 1997;237(1):7-13.
 32. Camero A, Hannon GJ. The INK4 family of CDK inhibitors. *Curr Top Microbiol Immunol* 1998;227:43-55.
 33. Yan H, Parsons DW, Jin G, McLendon R, Rasheed BA, Yuan W, et al. IDH1 and IDH2 mutations in gliomas. *N Engl J Med* 360:765-773, 2009
 34. Dang L, White DW, Gross S, Bennett BD, Bittinger MA, Driggers EM, et al. Cancer-associated IDH1 mutations produce 2-hydroxyglutarate. *Nature* 462:739-744, 2009
 35. Sanada M, Ogawa S et al. Gain-of-function of mutated C-CBL tumour suppressor in myeloid neoplasms. *Nature*. 2009 Aug 13;460(7257):904-8.
 36. Kato M, Ogawa S et al. Frequent inactivation of A20 in B-cell lymphomas. *Nature*. 2009 Jun 4;459(7247):712-6.
 37. Kawamata N, Ogawa S, Koeffler HP et al. Cloning of genes involved in chromosomal translocations by high-resolution single nucleotide polymorphism genomic microarray. *Proc Natl Acad Sci U S A*. 2008 Aug 19;105(33):11921-6.

研究成果の刊行に関する一覧

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
Shibui S	Statistical Analysis of Pineal Tumors Based on the Data of Brain Tumor Registry of Japan	Kobayashi T, Lunsford LD	Pineal Region Tumors. Diagnosis and Treatment Options. Progress in Neurological Surgery Vol. 23	Karger	Basel	2009	1-11
渋井壮一郎	Metastatic tumors	日本病理学会 (編)	脳腫瘍臨床病理カラーアトラス第3版	医学書院	東京	2009	157-159
杉山一彦	新時代の脳腫瘍学	松谷雅生 (編)	新時代の脳腫瘍学	日本臨床	東京	2010	150-155
大山優, 角美奈子	中枢神経系腫瘍	佐藤隆美、 藤原康弘、 古瀬純司、 大山優	がん治療エッセンシャルガイド	金原出版	東京	2009	120-146
佐藤慎哉	Eloquent area low grade glioma の手術	甲村英二 (編)	脳腫瘍の外科 —基本と挑戦—	メディカ出版	大阪	2008	22-29

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Momota H, Shibui S	Acute lymphoblastic leukemia after temozolomide treatment for anaplastic astrocytoma in a child with a germline TP53 mutation	Pediatr Blood Cancer	55	557-559	2010

渋井壯一郎	我が国および世界における 脳腫瘍の発生に関する疫学 的動向 - 新時代の脳腫瘍学 - 診断・治療の最前線	日本臨牀	増刊号	7-13	2010
Shibui S, Members of JCOG Brain Tumor Study Group	The result of a clinical trial for malignant gliomas by JCOG Brain Tumor Study Group	Neuro-Oncology	11	892	2009
Miyakita Y, Shibui S	A case of metastatic mali- gnant melanoma mimicking simple subcortical hemo- rrhage in an elderly woman	Jpn J Clin Oncol	39	621	2009
Narita Y, Shibui S	Strategy of surgery and radiation therapy for brain metastases	Int J Clin Oncol	14	275-280	2009
Shibui S	Treatment of metastatic brain tumors	Int J Clin Oncol	14	273-274	2009
渋井壯一郎	がん薬物療法学, -基礎・臨 床研究のアップデート-XI. 各臓器癌に対する薬物療法 脳腫瘍	日本臨牀	67	557-562	2009
櫻田香, 嘉山孝正	グリオーマ手術時の覚醒下 手術	脳 21	12	86-90	2009

Sonoda Y, <u>Kumabe T</u>	β -Methylguanine DNA methyltransferase determined by promoter hypermethylation and immunohistochemical expression is correlated with progression-free survival in patients with glioblastoma	Int J Clin Oncol	15	352-358	2010
Shibahara I, <u>Kumabe T</u>	Imaging of hypoxic lesions in patients with gliomas by using positron emission tomography with 1-(2-[18F] fluoro- 1-[hydroxymethyl]ethoxy) methyl-2-nitroimidazole, a new 18F-labeled 2-nitroimidazole analog	J Neurosurg	113	358-368	2009
Sonoda Y, <u>Kumabe T</u>	Analysis of the <i>IDH1</i> codon 132 mutations in Japanese glioma patients	Cancer Sci	100	1996-1998	2009
Sonoda Y, <u>Kumabe T</u>	Long-term survivors of glioblastoma: Clinical features and molecular analysis	Acta Neurochir (Wien)	151	1349-1358	2009
Makino K, <u>Kuratsu J</u>	Population-based epidemiological study of primary intracranial tumors in childhood	Childs Nerv Syst	26	1029-1034	2010
Ohta K, <u>Kuratsu J</u>	Decreased expression of germinal center-associated nuclear protein is involved in chromosomal instability in malignant gliomas	Cancer Sci	100	2069-2076	2009

Kudo M, Kuratsu J	Antitumor effect of human-ized antiinterleukin - 6 receptor antibody (tocilizumab) on glioma cell proliferation. Laboratory investigation	J Neurosurg	111	219-225	2009
Hide T, Kuratsu J	Sox11 prevents tumorigenesis of glioma-initiating cells by inducing neuronal differentiation	Cancer Res	69	7953-7959	2009
Yamasaki F, Sugiyama K	Glioblastoma treated with postoperative radio-chemotherapy: Prognostic value of apparent diffusion coefficient at MR imaging	European Journal of Radiology	73	532-537	2010
Watanabe Y, Sugiyama K	Expression of phosphoprotein enriched in astrocytes 15 kDa (PEA-15) in astrocytic tumors: a novel approach of correlating malignancy grade and prognosis	J Neurooncol	100	4449-4457	2010
山崎文之, 杉山一彦	Single voxel proton MR spectroscopy による脳病変の診断	脳神経外科ジャーナル	18	603-608	2009
Hidaka T, Sugiyama K	The combination of low cytoplasmic and high nuclear expression of p27 predicts a better prognosis in high-grade astrocytoma	Anticancer Research	29	597-603	2009

Hirata E, <u>Takahashi JA</u>	Endogenous tenascin enhances glioblastoma invasion with reactive change of surrounding brain	Cancer Sci	100	1451-1459	2009
Aoki T, <u>Takahashi JA</u>	Phase II study of ifosfamide, carboplatin, and etoposide in patients with a first recurrence of glioblastoma multiforme	J Neurosurg	112	50-56	2010
Suzuki Yu, <u>Tanaka K</u>	Pharmacokinetic investigation of increased efficacy against malignant gliomas of carboplatin combined with Hyperbaric Oxygenation	Neurol Med Chir	49	193-197	2009
Suzuki Y, <u>Tanaka K</u>	Increased distribution of carboplatin, an anti-cancer agent, to rat brains with the aid of hyperbaric oxygenation	Xenobiotica	38	1471-1475	2008
Yamazaki H, <u>Tanaka K</u>	Increased transendothelial permeability of anti-cancer agent carboplatin with aid of hyperbaric oxygenation	Xenobiotica	38	1298-1304	2008
<u>Nagane M</u>	Predominant antitumor effects by fully human anti-TRAIL-receptor2 (DR5) monoclonal antibodies in human glioma cells <i>in vitro</i> and <i>in vivo</i>	Neuro-Oncology	12	687-700	2010

<u>Nagane M</u>	Prolonged and severe thrombocytopenia with pancytopenia induced by radiation-combined temozolomide therapy in a patient with newly-diagnosed glioblastoma-analysis of O^6 -methylguanine-DNA methyltransferase status	J Neuro-Oncol	92	227-232	2009
<u>Nishikawa R</u>	Standard therapy for glioblastoma - A review of where we are.	Neurologia Medico-Chirurgica	50	713-719	2010
<u>西川亮</u>	Low-grade glioma の治療における諸問題	脳神経外科ジャーナル	18	418-422	2009
<u>Beppu T</u>	Prediction of malignancy grading using computed tomography perfusion imaging in nonenhancing supratentorial gliomas.	J Neurooncol			2010
<u>Beppu T</u>	Choice of posterior subtemporal transtentorial approach for tumor resection in deep anteromedial superior cerebellum- Case report	Neurologia Medico-Chirurgica	49	42-46	2009
<u>Muragaki Y</u>	Information-guided surgical management of gliomas using low-field-strength intraoperative MRI.	Acta Neurochir Suppl	109	67-72	2011

Ozawa N, <u>Muragaki Y</u>	Identification of the pyramidal tract by neuronavigation based on intraoperative diffusion-weighted imaging combined with subcortical stimulation.	Stereotact Funct Neurosurg	87	18-24	2009
<u>Muragaki Y</u>	Low-grade glioma on stereotactic biopsy: How often is the diagnosis accurate?	Minim Invasive Neurosurg	51	275-279	2008
Shinohara C, <u>Muragaki Y</u>	Long-term prognostic assessment of 185 newly diagnosed gliomas—grade III glioma showed prognosis comparable to that of grade II glioma	Jpn J Clin Oncol	38	730-733	2008
Kato T, <u>Muragaki Y</u>	Metabolic assessment of gliomas using 11C-methionine, [18F] fluorodeoxyglucose, and 11C-choline positron-emission tomography	Am J Neuroradiol	29	1176-1182	2008
Motomura K, H, <u>Wakabayashi T</u>	Benefits of Interferon- β and Temozolomide combination therapy for newly diagnosed primary glioblastoma with the unmethylated MGMT promoter: a multicenter study	Cancer		in press	2010

Kato T, Wakabayashi T	Efficient delivery of liposome-mediated MGMT-siRNA reinforces the cytotoxicity of temozolomide in GBM-initiating cells	Gene Therapy	17	1363-1371	2010
若林俊彦	temozolomide (TMZ) 不応性腫瘍の治療	脳 21	50	50-54	2009
Ohno M, Wakabayashi T	The modulation of microRNAs by type I IFN through the activation of signal transducers and activators	Mol Cancer Res	7	2022-2030	2009
Ito S, Wakabayashi T	Human neural stem cells transduced with IFN-beta and cytosine deaminase genes intensify bystander effect in experimental glioma	Cancer Gene Ther	17	299-306	2009
Wakabayashi T, Nishikawa R	A multicenter phase I trial of interferon- β and temozolomide combination therapy for high-grade gliomas (INTEGRA study)	Jpn J Clin Oncol	38	715-718	2008
Yoshimura R, Sumi M	Outcomes in patients with early stage hypopharyngeal cancer treated with radiotherapy	Int J Radiat Oncol Biol Phys	77	1017-23	2010

Sanuki-Fujimoto N, <u>Sumi M</u>	Metabolic assessment of gliomas using 11C-methionine, [18F] fluorodeoxyglucose, and 11C-choline positron-emission tomography	Radiotherapy and Oncology	91	433-437	2009
Uno T, <u>Sumi M</u>	Changes in patterns of care for limited-stage small-cell lung cancer: results of the 99-01 patterns of care study-a nationwide survey in Japan	Int J Radiat Oncol Biol Phys	71	414-419	2008

BRIEF REPORT

Acute Lymphoblastic Leukemia After Temozolomide Treatment for Anaplastic Astrocytoma in a Child With a Germline *TP53* Mutation

Hiroyuki Momota, MD,^{1,*} Yoshitaka Nariata, MD,¹ Yasuji Miyakita, MD,¹ Ako Hosono, MD,² Atsushi Makimoto, MD,² and Soichiro Shibui, MD¹

We present a case of a 12-year-old female with a germline *TP53* mutation who presented with anaplastic astrocytoma and subsequent acute lymphoblastic leukemia (ALL) 13 months after starting treatment with temozolomide (TMZ). The patient had no family history of malignancy except her grand father and his siblings. Although alkylating agents such as TMZ are known to induce secondary hematologic

malignancy, only several cases of treatment-related acute leukemia have been reported after TMZ-alone chemotherapy for malignant gliomas. We demonstrate a rare case of TMZ-related ALL in a child with glioma possibly associated with a germline *TP53* mutation. *Pediatr Blood Cancer*. 2010;55:577–579. © 2010 Wiley-Liss, Inc.

Key words: alkylating agent; glioma; p53; temozolomide; treatment-related acute leukemia

INTRODUCTION

Temozolomide (TMZ) is an oral alkylating agent used in the treatment of gliomas. The main toxicity of TMZ is myelotoxicity [1], but the incidence of grade 3–4 events is less than 10%. Because of its efficacy and tolerability, TMZ has become the first choice of chemotherapy for high-grade gliomas with a prolonged survival [2]. Prior to the introduction of TMZ, alkylating agents such as carmustine (BCNU), lomustine (CCNU), nimustine (ACNU), and procarbazine had been used as a first line for the treatment of malignant gliomas. These alkylating agents and topoisomerase inhibitors (e.g., etoposide) are well known to induce treatment-related myelodysplastic syndrome (t-MDS), acute myeloid leukemia (AML), or acute lymphoblastic leukemia (ALL) in cancer patients [3–5]. The development of t-MDS/AML and ALL are related to dose, therapy duration, and patient age. Since the current TMZ therapy for gliomas has been introduced after the use of other alkylating agents and has shown a prolonged survival, treatment-related acute leukemia (t-AL) may be on the rise in patients with gliomas. However, reports of t-AL associated with TMZ are few and it remains still unclear whether TMZ has the same leukemogenic potential as other alkylating agents. Here, we present a case of ALL occurred in a child with anaplastic astrocytoma after TMZ alone chemotherapy possibly in association with a germline *TP53* mutation.

CASE REPORT

A 12-year-old female developed numbness in her right side and was admitted to another hospital. She had no other medical history, but her grand father had a gastric cancer and he had two siblings with cancer. Magnetic resonance imaging (MRI) of her brain showed bilateral diffuse infiltrating tumors with contrast enhancement. She was transferred to our hospital and underwent biopsy of the right frontal lobe, and diagnosed with anaplastic astrocytoma. She started combination treatment with TMZ and local brain radiotherapy. TMZ was administered orally at 75 mg/m²/daily for 6 weeks. LBRT was administered simultaneously at whole dose of 60 Gy in 30 fractions of 2 Gy limited in high intensity region of the brain on T2-weighted MRI. After combined therapy, she started maintenance chemotherapy with TMZ at 150 mg/m²/daily

for 5 days. One month later, the dose of TMZ was increased to 200 mg/m²/daily for 5 days every month and she received 8 more cycles of TMZ. Between fifth and sixth course she developed excessive myelosuppression and chemotherapy was suspended for 2 weeks. Thirty-seven days from the last dose of TMZ, the peripheral blood had 34% leukemic blasts, and the patient was referred to the department of pediatric oncology in our hospital. On admission, the white cell count was 4,100/μl, hemoglobin was 12.3 g/dl, and platelet count was 25,000/μl. The differential count showed 46.0% neutrophils, 4.0% eosinophils, 4.0% monocytes, 11.0% lymphocytes, 3% myelocytes, and 35.0% leukemic blasts. Serum LDH was 663 U/L. A bone marrow aspiration demonstrated a massive infiltration of blast cells (86%). On flow cytometry, the blasts were positive for CD10 (78%), CD19 (100%), HLA-DR (100%), CD45 (100%), TdT (85%), and CD34 (24%). Cytogenetic analysis showed no chromosomal abnormality. A diagnosis of precursor B ALL was made. The patient was treated with induction chemotherapy consisting of prednisolone, vincristine, pirarubicin, and asparaginase. Central nervous system prophylaxis was simultaneously administered with intrathecal methotrexate, cytarabine, and hydrocortisone. Consolidation therapy was started but soon suspended because of complications. Follow-up MRI examinations for brain tumor during the treatment for ALL revealed slight brain atrophy and hydrocephalus without evidence of disease recurrence. She died from pneumonia 8 months after the diagnosis of ALL. We performed DNA sequencing analyses for *TP53* of the tumor and peripheral blood samples collected during the brain biopsy. A premature stop codon (CGA to TGA at codon 213) was detected in both samples, while immunohistochemistry of the p53 protein revealed no positive staining in the tumor tissue.

¹Neurosurgery Division, National Cancer Center Hospital, Tokyo, Japan; ²Pediatric Oncology Division, National Cancer Center Hospital, Tokyo, Japan

Conflict of interest: Nothing to declare.

*Correspondence to: Hiroyuki Momota, Department of Neurosurgery, Graduate School of Medicine, Nagoya University, 65, Tsurumai-cho, Showa-ku, Nagoya 466-8550, Japan. E-mail: momota-nsu@umin.ac.jp

Received 16 January 2010; Accepted 22 February 2010

TABLE I. Review of the Literature of t-MDS/AML and t-ALL Associated With TMZ-Alone Chemotherapy

Case	Age/ sex	Diagnosis	Radiation (Gy)	Total TMZ dose (mg/m ²)	Latency after TMZ (mo)	Hematological malignancy	Cytogenetics	Refs.
1	40/M	GBM	60.0	3,100	4	ALL	45, XY, -7, der(9) (p12) t(9;22)	[11]
2	44/F	LGA	54.0	24,000	28	MDS	-5, -7	[10]
3	34/F	AOA	59.4	28,000	3	MDS/AML	-5, -7	[10]
4	12/F	AA	60.0	12,900	13	ALL	Normal	Present case

TMZ, temozolomide; GBM, glioblastoma multiforme; LGA, low-grade astrocytoma; AOA, anaplastic oligoastrocytoma; AA, anaplastic astrocytoma; ALL, acute lymphoblastic leukemia; MDS, myelodysplastic syndrome; AML, acute myeloid leukemia.

DISCUSSION

In this report, we present a case of TMZ-related ALL. The present case is the second published report of treatment-related ALL in glioma patients treated with TMZ and the first published report of t-AL in children after TMZ treatment for gliomas. Since the effect of radiotherapy on secondary MDS/AL is considered to be limited [5], we assume that our case of ALL is mainly related to a treatment with TMZ and a germline *TP53* mutation. Although the reports of t-MDS/AML and ALL in glioma patients treated with nitrosoureas such as BCNU, CCNU, and ACNU have been accumulating [5–7], the leukemogenic activity of another alkylator TMZ has not fully evaluated yet. There are several reports of t-MDS/AML in association with TMZ, however, most of these cases were treated with TMZ after the treatment with other alkylating agents [7–10]. Only four cases of t-MDS/AML and ALL have been reported occurring after chemotherapy with TMZ alone in glioma patients (Table I) [10,11].

Secondary leukemia in cancer survivors accounts for 5–10% of all acute leukemias [12]. Although secondary MDS/AML are the most frequent entities among patients with secondary leukemia, secondary ALL represents certain numbers accounting for about 10% of all secondary leukemia [12,13]. In general, there are other possibilities to explain the development of ALL in cancer patients. One is genetic susceptibility to cancer. Heterozygous *TP53* mutation results in the Li-Fraumeni syndrome of a hereditary predisposition to cancer including astrocytic brain tumor and acute leukemia. However, de novo acute leukemia in patients with the Li-Fraumeni syndrome has been reported to account for only 20 of the 738 cancers (2.7%) in the 185 kindreds [14]; and germ-line *TP53* mutations are uncommon in patients with acute leukemia [15]. Another possibility is that the ALL occurred as a random event. Given the fact that the patient had a *TP53* germline mutation and a family history of cancer in the present case, the genetic background might have a substantial effect on cancer development. Considering of the leukemogenic activity of alkylators and the timing of the onset of ALL, TMZ might also be a primary factor in our patients. Moreover, since TMZ is known to have a toxic effect especially on lymphocytes [16], it is interesting that two out of four TMZ-related MDS/AMLs and ALLs in the reported cases presented as an ALL.

The incidence of treatment-related AL has been reported in a large prospective study of 1,628 brain tumor patients treated with CCNU [6]. In this report, only 10.9% of the study participants were followed for more than two years, and only two cases of treatment-related AL were observed in 1,682 patients (0.12%). As the median latency between the initiation of therapy and the diagnosis of t-MDS/AML and ALL has been reported to be 31 months in brain tumor patients and to be 50–70 months in patients with other malignancies [5,17,18], the incidence of treatment-related AL may be much higher than those reported. Chamberlain and Raizer [10] have reported seven cases of t-MDS/AML during the treatment of gliomas. Of the seven patients, five patients had been treated with nitrosoureas and TMZ, and two patients with TMZ alone. These data indicate that the combination of nitrosourea and TMZ may increase the incidence of alkylator-induced MDS/AML and ALL. However, there are no data to suggest that TMZ is more likely to induce secondary hematological malignancies than nitrosoureas or to enhance the leukemogenic activity of other alkylators.

In conclusion, increasing evidence indicate that TMZ may have the same leukemogenic potential as other alkylating agents. As TMZ has only been approved in the last decade and the survival rate in glioma patients has increased, TMZ-related MDS/AML and ALL will become more frequent. Although treatment-related ALL is a relatively rare entity in secondary leukemia, it may become more problematic in patients with glioma because of the increased use of TMZ.

In conclusion, increasing evidence indicate that TMZ may have the same leukemogenic potential as other alkylating agents. As TMZ has only been approved in the last decade and the survival rate in glioma patients has increased, TMZ-related MDS/AML and ALL will become more frequent. Although treatment-related ALL is a relatively rare entity in secondary leukemia, it may become more problematic in patients with glioma because of the increased use of TMZ.

ACKNOWLEDGMENTS

We thank Yuko Matsushita and Kaori Suzuki for technical assistance of laboratory work, and Ruriko Miyahara for assisting the analysis of patient information.

REFERENCES

1. Yung WK, Albright RE, Olson J, et al. A phase II study of temozolomide vs. procarbazine in patients with glioblastoma multiforme at first relapse. *Br J Cancer* 2000;83:588–593.
2. Stupp R, Mason WP, van den Bent MJ, et al. Radiotherapy plus concomitant and adjuvant temozolomide for glioblastoma. *N Engl J Med* 2005;352:987–996.
3. Smith MA, McCaffrey RP, Karp JE. The secondary leukemias: Challenges and research directions. *J Natl Cancer Inst* 1996;88:407–418.
4. Greaves MF. Aetiology of acute leukaemia. *Lancet* 1999;349:344–349.
5. Perry JR, Brown MT, Gockerman JP. Acute leukemia following treatment of malignant glioma. *J Neurooncol* 1998;40:39–46.
6. Greene MH, Boice JD, Jr., Strike TA. Carmustine as a cause of acute nonlymphocytic leukemia. *N Engl J Med* 1985;313:579.
7. Su YW, Chang MC, Chiang MF, et al. Treatment-related myelodysplastic syndrome after temozolomide for recurrent high-grade glioma. *J Neurooncol* 2005;71:315–318.
8. Noronha V, Berliner N, Ballen KK, et al. Treatment-related myelodysplasia/AML in a patient with a history of breast cancer and an oligodendroglioma treated with temozolomide: Case study and review of the literature. *Neuro Oncol* 2006;8:280–283.

9. Kim SJ, Park TS, Lee ST, et al. Therapy-related myelodysplastic syndrome/acute myeloid leukemia after treatment with temozolomide in a patient with glioblastoma multiforme. *Ann Clin Lab Sci* 2009;39:392-398.
10. Chamberlain MC, Raizer J. Extended exposure to alkylator chemotherapy: Delayed appearance of myelodysplasia. *J Neurooncol* 2009;93:229-232.
11. De Vita S, De Matteis S, Laurenti L, et al. Secondary Ph+ acute lymphoblastic leukemia after temozolomide. *Ann Hematol* 2005;84:760-762.
12. Pagano L, Pulsoni A, Tosti ME, et al. Acute lymphoblastic leukaemia occurring as second malignancy: Report of the GIMEMA archive of adult acute leukaemia. Gruppo Italiano Malattie Ematologiche Maligne dell'Adulto. *Br J Haematol* 1999;106:1037-1040.
13. Hunger SP, Sklar J, Link MP. Acute lymphoblastic leukemia occurring as a second malignant neoplasm in childhood: Report of three cases and review of the literature. *J Clin Oncol* 1992;10:156-163.
14. Nichols KE, Malkin D, Garber JE, et al. Germ-line p53 mutations predispose to a wide spectrum of early-onset cancers. *Cancer Epidemiol Biomarkers Prev* 2001;10:83-87.
15. Felix CA, Nau MM, Takahashi T, et al. Hereditary and acquired p53 gene mutations in childhood acute lymphoblastic leukemia. *J Clin Invest* 1992;89:640-647.
16. Stupp R, Dietrich PY, Ostermann Kraljevic S, et al. Promising survival for patients with newly diagnosed glioblastoma multiforme treated with concomitant radiation plus temozolomide followed by adjuvant temozolomide. *J Clin Oncol* 2002;20:1375-1382.
17. Kantarjian HM, Keating MJ, Walters RS, et al. Therapy-related leukemia and myelodysplastic syndrome: Clinical, cytogenetic, and prognostic features. *J Clin Oncol* 1986;4:1748-1757.
18. Rowley JD, Golomb HM, Vardiman JW. Nonrandom chromosome abnormalities in acute leukemia and dysmyelopoietic syndromes in patients with previously treated malignant disease. *Blood* 1981;58:759-767.